

牛久：学校周辺に見る自然

第48号 みずべ公園（ひたち野うしく小）

2016年11月28日発行

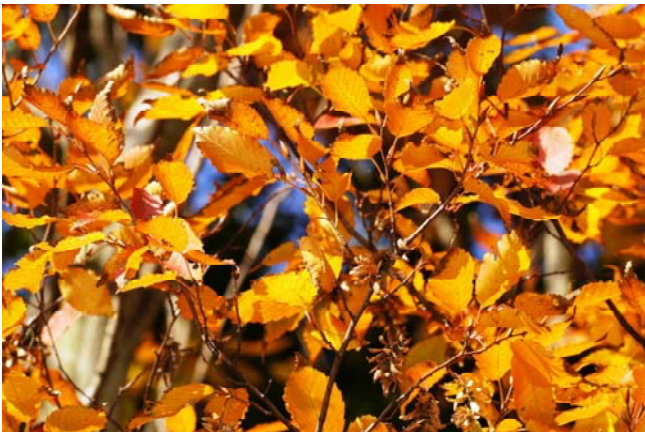
＜ 秋の終わりに、そよかぜ学級とみずべ公園を歩く ①紅葉 ＞

11/17、前回の秋の観察から3週間が過ぎ、ひたち野うしく小そよかぜ学級の皆さんと、秋の終わりのみずべ公園を歩いてきました。紅葉もきれいで、たった3週間ですぐいぶんとようすも変わりましたね。



みずべ公園の紅葉(こうよう)。日本ではいろいろな木がそれぞれの色を出してまじりあい、そのコントラストが美しい。

秋になれば木々が紅葉するのは当たり前と知っている人もいるかもしれませんが、紅葉を楽しむのは冬には葉を落とす落葉樹(らくようじゅ)が多いからで、そういう地域は世界中で日本など東アジア沿岸とヨーロッパの一部、北アメリカ東部などに限られ多くはないそうです。中でも日本は落葉樹の種類が多く、赤～オレンジ色～黄色と木の種類や時期などによってさまざまな色を出します。一方で一年中緑色の葉をつけている常緑樹(じょうりょくじゅ)もあって、そのコントラストの美しさは日本で見られないようです。この日はシラカシやヒサカキ、サワラなどの常緑樹と、赤～オレンジ色に色づいたアカシデやウワミズザクラ、ヤマザクラ、黄～茶色のコナラ、クリ、イヌシデなどがまじってとてもきれいでした。



葉や実はよく似ているが、オレンジ色に紅葉するアカシデ(左)と黄色に黄葉するイヌシデ(右)。

みずべ公園では、アカシデ、イヌシデと2種類のシデ類が見られます。葉や果実はよく似ていてどちらだろうと迷うこともありますが、葉の脈の数や果実の形などいくつかの区別点があります。紅葉の色も、その一つといえるかもしれません。木によっても差がありますが、全体的にアカシデはオレンジ色～紅色に紅葉した後茶色く枯れて落ち、イヌシデは黄葉した後茶色くなって落ちるようです。他の区別点については、またの機会にしましょう。



下から見上げたコナラの紅葉のようす(上)と日当たりのよい低い枝の葉(下)。

紅葉は1本の木のなかで少しずつ進んでいくことが多いようで、また木の先端の方から進んだり下の方から、内側からと種類によって決まりがあるようです。1枚の葉についても同様に、葉脈から進んだり脈の間からだったり、表がまっ赤でも裏は緑色だったりします。左のコナラではどうですか？1週間後には、どうなっ

ているでしょうね？いろいろな木で、紅葉の進むようすを調べてみるのもおもしろいでしょう。その他この日、目を引きつけられたのはコブシの黄色とウワミズザクラの黄～オレンジ、紅色のグラディエーションでしょうか。草の紅葉もいくつか見られ、セイタカアワダチソウが果実を泡立つようにもこもこ広げ風に飛ばしながら葉をまっ赤に色づかせているものもあり、印象に残りました。昆虫大好きそよかぜ学級の皆さんは、どの紅葉が一番気に入りましたか？あとで教えてくださいね。【理科支援員：宮内】



コブシの黄色(左)と黄～紅のウワミズザクラ(右)。
セイタカアワダチソウなど草にも紅葉するものあり(中)。